

ADVANレーシングタイヤインフォメーション

2010年 SUPERGTシリーズ第2戦

2010.4.4

OKAYAMA GT 300km RACE



横浜ゴム(株)は、フラッグシップ・ブランド「ADVAN」の性能訴求及び企業イメージの向上として、2010年も国内のみならず、海外へも積極的にモータースポーツを支援していく。その活動のひとつであるのが、SUPER GTシリーズ。日本で最も高い人気とハイコンペティションを誇るレースに、ADVANはGT500クラスにおいて、近藤真彦監督率いるKONDO RACINGとのパートナーシップを2010年も継続することになった。HIS ADVAN KONDO GT-Rを駆るのは、ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラと安田裕信の新タッグ。もちろん狙うは年間2勝以上、そして初のチャンピオンである。

HIS ADVAN KONDO GT-Rは、2年連続でシリーズ開幕戦を制するという偉業を成し遂げた。しかも、予選でクラッシュがあったため、10番手スタートだったにもかかわらず激しい追い上げで、また、勝因のひとつでもあるタイヤ無交換策は、ADVANの高性能かつロングライフを実証することとなった。

第2戦の舞台である岡山国際サーキットは、開幕戦の鈴鹿サーキットがアベレージの高いテクニカルコースであるのに対し、同じテクニカルコースであってもアベレージはそう高くない。その違いを考慮して、投入するタイヤには若干の変更が加えられている。特に重視されるのはダブルヘアピンでの追従性。連なる低速コーナーをロスなく走ることが、ラップタイムに大きな影響を及ぼすからである。

このスペックのタイヤは開幕前に行われた合同テストで、ウエット用タイヤも含めて確認済。チームからも高評価を得られている。ただ、ひとつ注意しなくてはならないのは、このコースの路面はレースウィークに入ってからの変化が大きく、練習走行時のインフォメーションを重視し過ぎると、決勝レースにはマッチしないということが多々あること。

そこで過去のデータを活用するわけだが、何より昨年のレースで予選3番手、雨の決勝レースでは優勝と、コースとの相性も良い。40kgのウエイトを積んではいれるものの、ひとつでも上の順位を狙い、ランキングトップをキープすることがマストの目標となる。

GT300クラスでは、谷口信輝と折目遼の駆るM7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC7が、ポール・トゥ・ウィンを達成。もはや得意技とも言えるタイヤ無交換策で圧勝となった。2位にもアップスタートMOLA Z、3位にもウェッズスポーツIS350がつけ、ADVANユーザーで表彰台を独占。それどころか、5位までをユーザーが占め、GT500クラスの勝利と合わせて最高のADVAN DAYとしていた。

第2戦に向けて、ベースは鈴鹿で用いられたタイヤのままだが、細かい改良は加えられている。コースのレイアウト的に、左側のタイヤが特に厳しくなる傾向があるため、その2本のみレース中に交換というケースが多くなるかもしれない。

このコースでは、コーナリング自慢の車両が強みを発揮しそうだ。昨年も優勝を飾っているウェッズスポーツIS350を筆頭に、前回は早々にリタイアを喫したものの、それがゆえにノーハンドで挑めるアップル・K-ONE・紫電やapr COROLLA Axioも有利にレースを進められるだろう。また、40kgのウエイトを積んでなおM7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC7が、どこまで上位に食い込めるか。また、アップスタートMOLA ZやHASEMI SPORT TOMICA Zも、コースとの相性は非常に良く、引き続きの上位入賞が見込まれている。

その一方で、開幕戦で見せたマツハGOGOGO車検408R、そしてJLOCランボルギーニRG-3の圧倒的なストレートパフォーマンスは、今回もバックストレートで遺憾なく発揮されるはず。なかなか予想は困難なレースになるのは必至ながら、再びADVANユーザーによる上位独占が期待される。



2010年 SUPERGTシリーズ第2戦用ADVANタイヤラインアップ

		GT500	GT300
ドライ用スリック	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	3種類(S, MS, M)	2種類(S, MS)
	サイズ	Fr 330/710R18, Rr 330/710R17	280/710R18, 280/680R18, 280/650R18
ウエット用レイン	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	2種類(S, M)	2種類(S, M)
	サイズ	Fr 330/710R18, Rr 330/710R17	280/710R18, 280/680R18, 280/650R18



